



よるんちよう 議会だより

第132号

2019年／令和元年8月15日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花32-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4197



地区大会で見事5連覇を達成した与論町サッカーチーム(写真提供・原田誠一郎氏)

採択した陳情・意見書 (P3)

6月
定例会

奄美群島市町村議会議員大会 (P4)

一般質問

7人が登壇!町政を問う (P 5～P11)

一般会計予算は 52億6872万円 (2億2996万円を追加)

主な補正

庁舎整備事業費	4154万円
農村環境整備事業費	673万円
道路維持費	537万円

令和元年第二回定例会を六月十七日から二十一日までの五日間の日程で開いた。

六月十七日は諸般の報告の後、7人の議員による一般質問を行い、町政全般について議論を交わした。

その後議案審議を行い、条例案3件、補正予算案1件を原案の通り可決した。

二十一日は最終本会議を開き、追加議案1件を可決した。また、委員会付託されていた陳情1件を委員長報告の後採択し、「教職員定数と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消を図るための2020年度政府予算に係る意見書の提出」を可決した。

最後に議員派遣の件と閉会中の継続審査・調査について決定し、会議を閉じた。

一般会計補正予算

会計名	補正前予算	補正額	計
一般会計	50億3875万円	2億2996万円	52億6872万円

トピックス

福地元一郎議長が左記の役職に就任したので報告いたします。

○平成31年3月1日大島郡町村議会議長会長に就任。

○令和元年5月8日鹿児島県町村議会議長会長に就任。

○令和元年5月29日全国町村議員会館評議員に就任。

○令和元年6月25日九州各県町村議会議長会協議会副会長に就任

今後、県や中央政府への陳情要請等に活躍が期待される。

採択した陳情・意見書

◎教職員定数と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消を図るための2020年度政府予算に係る意見書採択の要請について。

陳情者

大島郡与論町茶花

鹿児島県教職員組合

与論地区協議長

江夏文字

採択理由

本陳情については、平成23年、平成25年、平成26年にも同様の陳情が提出され採択されている。

陳情の要旨は、学校現場において、外国語教育実施のための授業時数の調整に苦慮していることや、子供たちの豊かな学びを実現するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ



授業風景

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

ており、子供たちの豊かな学びを実現するために教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況になっ

記

1 子供たちの教育環境を改善、教職員の長時間労働改善のため、計画的な教職員定

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

令和元年6月21日

鹿児島県与論町議会

第62回奄美群島市町村議会議員大会

奄美群島振興交付金の充実・拡充を望む



第62回奄美群島市町村議会議員大会（龍郷町）

去る5月15日、龍郷町りゅうゆう館において、第62回奄美群島市町村議会議員大会が群島選出県議会議員や各市町村長等、来賓出席のもと盛大に開催された。

議事に先立ち自治功労者表彰があり、10人が表彰された。

その後、各地区及び議長会からの提出議題

については、それぞれ代表者から提案理由の説明がなされた。

各地区関係では、①主要地方道名瀬竜郷線の秋名く大熊バイパスの早期着工について（龍郷町・喜界町）②奄美群島における水産業振興の強化について（奄美市）③国道58号（奄美市住用町役場〜網野子トンネル起点

間、勝浦く阿木名間）の改良促進について（大和村・宇検村・瀬戸内町）④旧亀徳岸壁の10万トン級バースへの延伸改修について（徳之島町・天城町・伊仙町）⑤さとうきびハーベスタ利用助成金の創設について（和泊町・知名町・与論町）の5項目であった。

議長会からは、路面電車ルートへの鹿兒島新港までの延伸についての1項目が提出された。

また、2020年の世界自然遺産登録を見据え、「自立的発展」を目指した島づくりの機運が高まりを見せているなか、奄美群島振興交付金による航路航空路運賃の軽減、農林水産物輸送コストの軽減など、各種制度を積極的に活用した産業の振興、人材育成、雇用の場の確保とともに、

奄美群島振興開発特別措置法のもと、奄美群島の自立的で持続可能な発展の実現と、地方創生による地域の活性化を、市町村議会として地域住民・行政と一体となつて推進し、全力を尽くすことを宣言した。

最後に、①奄美群島振興交付金の充実・拡充、②奄美群島成長戦略ビジョンに基づく各種施策の推進、③地方創生に向けた取り組みの推進、④「奄美大島、徳之島、沖繩島北部及び西表島」の世界自然遺産登録の推進、⑤雇用の場の確保・拡充、⑥情報通信ネットワークの整備・拡充、⑦交流人口拡大に向けた施策の推進と更なる支援策の拡充、⑧道路・港湾・空港など交通基盤の整備・充実、⑨さとうきび・園芸作物・畜産など

産業基盤の整備・充実、⑩重要病害虫ミカシノミバエ種群再侵入防止へ向けての適切な対応、⑪特殊病害虫、メイチュウ、不快害虫等及びイノシシ対策の充実・強化、⑫災害に強いまちづくりの推進、⑬名瀬測候所の地方気象台格上げ、⑭介護保険・老人保健福祉・社会福祉の充実・強化、⑮地域を支える人材の確保・育成、教育の推進、⑯医療の充実・強化、⑰独立行政法人奄美群島振興開発基金の充実・強化の17項目を決議して、大会を終えた。

その後、議員研修会があり、『働き方改革』が奄美群島の地方創生推進力に結び付く」と題して町田酒造株式会社代表取締役社長、中村安久氏による講演が行われた。

一般質問

7人の議員が登壇、町政を問う

小型高速客船の運航について

町長 今後の状況を見極め行政支援を検討する。



沖野一雄議員

沖永良部・与論・沖縄間の小型高速客船運航

沖野議員 過日、小型

高速客船による沖永良部島・与論島・沖縄本島を結ぶ、新たな航路の開設備に係る新聞報道があった。この新航路が実現すれば、交流人口の増大等に大きな成果が期待されるが、これまでの経緯や就航に際しての具体的な運航内容、今後の行政支援の考え方等について伺いたい。

町長 昨年、本件につ

いて日東商船（株）から事業計画案が示された。内容は、沖縄県大宜味村の塩屋漁港と与論港、沖永良部知名漁港を小型高速旅客船（FRP製19トン、旅客定員60名、特2等28席、2等席15席、自由席17席）で結ぶ航路開設計画となっている。各港間の料金設定や塩屋漁港と連結する那覇港無料バスの案内等が示されているが、現段階では本町への就航等の詳細部分に不明な点があり、今後の状況を見極めながら支援策を検討していく。

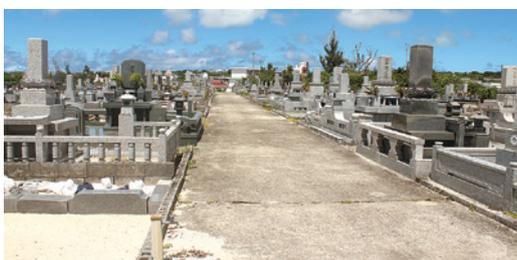
お墓をめぐる課題
認識及び今後の取組

沖野議員 お墓の管理

運営については、各墓地ごとに組合規約や慣習等に従って主体的に行われているものと承知しているが、一部では組織の形骸化や休止等により適正管理が行われず、無縁墓地化や使用者不詳等のお墓が増えている。このお墓の管理運営に係る現状と課題をどう認識し、具体的対策をどのように講じていく考えであるか。

町長 墓地管理組合の一部は、非常に行き届いた運営がされているが、殆どが機能していない状況である。今後、人口流出や少子高齢化が進んだ場合、墓地の管理放棄や無縁墓地化の進行が考えられる。

墓地管理組合の組織体制は、以前は主に自治公民館及び利用者等を中心組織されて来たが、近年コミュニティ力の低下により、組合の体制整備が難しい状況にある。これは地域住民にとって放置できない問題であり組織体制のあり方を模索していく。



管理の行き届いた茶花墓地

沖野議員 高齢人口の増加や核家族化の進行、定住化の促進等により、墓地や納骨先の新規取得を希望する需要の増加が予測される。ところであり、合葬墓や共同納骨堂等の新設検討も含めて、今後の町行政の役割や具体的な取組についてどう考えているか。

町長 島立ちした子供たちが島外に出たまま帰って来ないため、継承者が無く先祖のお墓の維持管理が困難となるケースが増えつつあることや、先祖やお墓に対する意識の変化で、お寺などが恒久的に供養・管理してくれる「永久供養墓」として共同墓地による合葬の形態が増えている。共同納骨堂の整備については、供養並びに管理を担う組織体制のあり方なども含めて検討していく。

ドクターヘリ搬送先の選択について

町長 奄美ドクターヘリは県立大島病院搬送が原則である。



高田豊繁議員

ドクターヘリの搬送 先医療施設の選択

高田議員 ドクターヘリの運航の現状と搬送先の選択決定について伺いたい。

町長 昨年の実績では奄美搬送が4件、沖縄搬送が7件である。奄美ドクターヘリが要請できず沖縄ドクターヘリに要請した事案も2件ある。奄美ドクターヘリの搬送先は、基本的に県立大島病院が原則である。搬送先は、各事案毎に病院と患者家族の相談等によって、ヘリ搭乗医師が決定している。
与論島の場合、地理的条件から緊急性や利便性で、沖縄の方が有

利と思われるので、今後沖縄への搬送案について県に相談する必要もあると考える。

障害者総合支援法に基づく旧ケアホーム待機入居者の対策

高田議員 町内における障害者の自立や共同生活を図るため、民間団体の配慮によって現施設の（法改正によってグループホームへ一元化）建設運営が成されているが、同施設への入居待機者の現状打開や今後の拡充対策を運営団体に要請する考えはないか。



既存の施設

町長 施設の建設・運営については、民間の社会福祉法人が自己資金等で担っており、施

設規模を拡充するためには、資金面や職員確保のハードルが高いとのことである。今後、町として連携協力の可能性を検討していく。

堆肥センターの拡充 や農用排水及び集落排水、農道集落道路等の包括的な整備

高田議員 県営の中間地域総合整備事業や農村振興総合整備事業等の農水省高率補助事業を県に要望し包括的に整備する考えはないか。

町長 ウピンジュ排水路改修及び浸透調整池の整備については、農村振興総合整備事業の他に補助率の高い農村地域防災減災事業があり、これを導入できないか県と協議をしている。農道整備については、現在進めている土層改良事業ができる畑地帯総合整備事業を

活用し、また、堆肥センターの拡充については、機械の老朽化・雨天等の対策を含め補助事業を導入出来ないか県と協議している。

危険物輸送や畜産飼料等の海上貨物類輸送の改善を図るための定期貨物航路運航態勢の確立

高田議員 奄美群島内で定期貨物航路の運航がない本町の状況は町民生活における大きな不利益性が考えられるが、町、民間団体と連携し貨物船の定期運航態勢の確立を図る考えはないか。

町長 本町への定期貨物航路の運航条件として、一定程度以上の輸送物資の積載重量や専用の輸送コンテナの確保が船舶会社から示されているので、現在、関係団体と輸送物資や輸送方法、運航回数等

について協議を重ねている。

認知症や障害者等に対する成年後見人制度の現状と課題や対策

高田議員 障害者等を対象とした生命財産の保全や保持のため家族等からの申請が難しい場合、町長が成年後見人の申請を家庭裁判所に申請することができるとの現状と今後の対策を伺いたい。

町長 実際には利用された事案としては、島外から本町の福祉施設に入所されている方で、平成25年度に施設からの申し立てを受理して、裁判所へ成年後見制度市町村長申し立てを行い、与論町内の方に成年後見人を請け負って頂いている。今後、同じような事案があった場合には、速やかに審判請求等の手続きを行っていく。

離島漁業再生支援交付金事業で新規事業を

町長 現在の取組みを基軸に新たな事業の模索を協議する。



林 敏治議員

水産業の振興対策

林議員 水産業を持続的産業として発展させるため、6次産業化に向けた具体的な戦略策定、販路調査、島内人材育成、供給システム等を構築し、離島漁業再生支援交付金事業を活用して、魚介類の種苗放流や藻場造成を行い水産資源の保全を図りながら養殖など新しい事業に取り組み考えはないか。

町長 離島漁業再生支援交付金事業は、販路調査や人材育成、藻場・サンゴ礁の造成、種苗放流などの取組みに活用されている。具体的には、規格外品や売れ残ったシビヤ



与論町漁協

ソデイカ、モズクなどの加工販売、販路調査による取引先確保、また、島内外で開催される各種研修会や物産展への参加による人材育成に努め、6次産業化の推進に取り組んできたが、天候不良による漁獲不振が安定生産の課題となっている。

種苗放流については、シラヒゲウニやスジアラ、夜光貝等の放流を実施したが定着には至っていない。またスーナの陸上養殖とカキの養殖に取り組み始めているが、人材の確保や漁業権の設定等の課題がある。現在の取り組みを基軸に、新たな模索を漁協

魅力ある観光地づくり

林議員 本町が魅力ある観光地であるためには、計画的な観光拠点施設等の整備や、旅行者を温かく迎え入れるため、行政や観光関連業者が中心となってアロハシャツやかりゆしウェアなどを着用し、統一感のある受入れ体制の強化を行い、南国特有のイメージアップを図る必要があると痛感するが、積極的に推進していく考えはないか。

や漁業者の意見を取り入れ協議していく。

町長 以前、役場内にてかりゆしウェアや役場用のカッターシャツ等の着用で統一感のある職場づくりを計画したが、各課で業務内容が異なることから定着しなかった。また、観光関連業者の中でも意見が分かれ

ており意思統一がなされていない。他の自治体では着用が推進されている事例もあるので、今後も検討を進めていく。

スポーツ振興対策

林議員 与論町スポーツアイランドを確立するため、スポーツ合宿やキャンプ誘致活動を始め、豊かな環境資源をいかしたニュースポーツの導入やトライアスロン大会など新たなイベントを開催し、町民の健康増進や体力向上にも効果があるスポーツを親しむ環境づくりに取り組む考えはないか。

教育長 本町は、多目的運動広場の施設を核とする既存の施設や自然環境資源を活かした「与論町スポーツアイランド」の確立を目指している。現在、鹿児島・沖縄・奄美群島を中心に青少年向けスポーツ大会の開催やスポーツ合宿の誘致活動を行っており、7月にはスポーツ合宿の予定も入っている。

また、プロのスポーツトレーナーを招へいし、町内に約20人のスポーツトレーナーを養成し、町民にストレッチ等の指導ができる体制も整えている。ニュー・スポーツやトライアスロンの導入については、商工会や観光協会、スポーツクラブ等と連携を図り、海洋スポーツも視野に入れ検討していく。



与論町多目的運動広場

海産物養殖の積極的な取組を図れ

町長 離島漁業再生支援交付金事業で取り組み進化を図る。



町 俊策議員

観光スポットの整備

町議員 皆田海岸に建立されている山口誓子の句碑と皆田離をバックに観光客が記念撮影できるように、句碑周辺を整備する考えはないか。



山口誓子の句碑

町長 句碑については、現在樹木等の陰になつており、記念撮影等ができるよう自然環境にも配慮しつつ、地元集落と相談しながら整備を検討していく。

町議員 船倉海岸にア

ジニツチエーにまつわる漁や浜やドウイに関する物語の看板を設置するなど英雄の聖地として整備する考えはないか。また、船倉トイレへの近道の整備と誘導看板を設置する考えはないか。

町長 保安林区域のため県と協議し、按司根津栄神社や関係者と連携を進める。また船倉トイレへの近道整備は、大金久遊歩道整備に併せて進めていく。

町議員 大金久保安林内の遊歩道の整備状況はどうなっているか。また、遊歩道内の誘導看板並びに簡易休憩所を設置する考えはないか。

町長 遊歩道の整備は、奄美群島成長戦略推進交付金事業として実施し「クズレ橋」から船倉海岸間を平成30年度から3年かけて整

備する計画で、現在300メートルが舗装済みであり、順次改修工事を進めていく。また、誘導看板や簡易休憩所の設置も、多くの利用者が見込まれるため、遊歩道整備と並行して進める。

町議員 与論城跡にある山口誓子の句碑の建立場所からの眺めは、句碑の内容と一致していないと思われるが、建立場所についてどのように認識しているか。

教育長 昭和53年来島時に、現地でこの句を詠み、後日、記念碑が建立された。句碑周辺が木々に覆われ眺望が悪くなっているため、句の内容に沿えるよう取り組んでいく。

町議員 供利港待合所の旧案内看板を活用し、ビドウ遊歩道への

案内看板を設置する考えはないか。またヨロン駅から西への遊歩道整備の進捗状況と、今後の整備計画はどうなっているか。

町長 現在、供利港待合所正面入口に奄美群島トレイルコース看板が設置され、その中でビドウ遊歩道の案内を行っている。また、ヨロン駅から西側への遊歩道整備は、今年度は「ヨロン駅」―「愛の鐘」間を行う予定である。次年度以降も県と協議し整備出来るよう努める。

海産物養殖の積極的な取組

町議員 外海離島である本町の漁業は、天候

による漁船の稼働率の低下は免れず、観光客の海産物への期待に応えられていない。水産業や観光業の発展のためには、小規模多品種

の陸上養殖を模索し開発振興することが急務であり、漁業者、行政、大学（水産学部）が連携して早急に取り組む必要があると痛感するが町長はどのように考えているか。

町長 陸上養殖は、施設整備と維持に時間や経費がかかるため、中長期的な展望の下で取り組む必要がある。

現在、離島漁業再生支援交付金事業を活用してスーナとカキに取り組み始めている。「海を汚さない」という点で、水産業と観光業双方の発展に配慮したこの取組が、魚類養殖などの可能性を下支えすると考える。

また、鹿児島大学と共同研究した急速冷凍技術で鮮度維持された加工品などの素材も活用しながら、不漁時の観光客の「食」への期待に応えていきたい。

改正水道法について

町長 広域化は物資の共同調達を検討している。



川村武俊議員

改正水道法

川村議員 水道法が改正され、水道事業の民営化や広域化が進められようとしているがどのように認識し、今後どのように進めていく考えであるか。

町長 本町においては、現在、水質検査業務とメーター検針業務を委託しているが、その他業務についての業務委託は現時点では難しいと考える。

広域化については、知名・和泊・与論のブロック検討会において、出来る事から相互協力を進めるため、情報交換会・技術講習会の開催、災害時応援協定の締結、物資の共同

調達等への取組を検討している。

畑地かんがい用水

川村議員 沖永良部の国営地下ダムが完成間近である。完成後は沖永良部・与論3町の水利組合の広域化がささやかれているが、どのように認識し、どう進めていく考えであるか。

町長 沖永良部の国営地下ダムは、沖永良部土地改良区により管理がなされているようであるが、3町の水利組合の広域化については、現在のところ把握していない。

堆肥センターの運営

川村議員 牛ふんの回収が滞りがちであるが、どこに問題があるのかのように解決していく考えであるか。

町長 昨今の子牛価格の高騰等により畜産農

家の多頭飼育化や專業化が進んでおり、当初計画より堆肥センターの原料受入量が大幅に増えている現状にある。

一方、堆肥利用量については、年々微増はしているが受入量が堆肥利用量を大幅に上回っている。

今後も引き続き耕畜連携で特に夏場の堆肥利用による土作りなど、関係機関と連携し適正な堆肥の活用が行えるよう一層努めていく。

公共施設の運営

川村議員 多目的運動広場は利用拡充が図られているが、総合グラウンドや屋外テニスコート場の利用率は低くなっていると思われる。今後このような体育施設をどのように運営していく考えであるか。

教育長

特に総合グラウンドは、多目的運動広場の完成以降は利用者が半数以下に減りグラウンドにも雑草が生えかけている状態である。現在、この状況を改善するため両施設の周りの木の伐採や除草を行い施設まわりの整備を行っている。



総合グラウンド

今後の計画としては、多目的運動広場と連携した枠組みの中でスポーツ施設としての活用を中心に考えながら、中高生の部活動等への活用やスポーツ利用以外での活用方法についても検討している。

く。

川村議員 利用率の低い公共施設や少子化により空いてくる施設を今後どのようにしていく考えであるか。

町長 公立こども園について、職員不足による運営の問題や少子化等社会情勢の変化に合わせて、1園体制にもつていくことを将来像として描いている。

将来1園体制にした場合に空きとなる施設については、町の財政状況や社会のニーズを総合的に判断しながら活用していく。

一方、利用率の低い施設としては、ヨロン特産品支援センターが考えられる。今後は販売に繋がる生産拠点として営業許可等の取得や加工の受託などを模索し、より活用しやすい施設として利用率の向上を図っていく。

立長トウイシ浜の階段が危ない

町長 施工方法等を精査し改修の検討を進める。



大田英勝議員

立長トウイシ浜への階段の整備

大田議員 トウイシの浜に降りる階段が台風の高波によって壊されたから久しくなるが、未だに復旧されていない。現場を見てみると非常に危ない状況になっており、改修工事を行う必要があると思うが、早急に対応する考えはないか。また、現在の階段は、一歩当たりの段差が大きく高齢者にとっては難儀な状況となっており、整備に当たっては、階段を緩やかにし、高齢者にも優しい上り下りの容易な階段に改修する考えはないか。

町長 トウイシ浜は、

前面のリーフの発達がなく外洋からの波浪の影響を直接受け、崖等の浸食が進行しており、通路階段にも影響が出ている。

町内には、近年の豪雨等の自然災害による被害が他にも多々あるので、災害復旧については緊急性が高い順に整備を進めている。

指摘の箇所も、施工方法及び事業費等を精査しながら改修の検討を進めていく。

教員住宅の老朽化対策

大田議員 最近教員住宅の設備に対する不満を漏れ聞いた。古い住宅については、住人からの聞き取り調査や要望を聞き、早急な対応が必要だと考えるが見解を伺いたい。

教育長 現在の教員住宅数は42戸有り、良好な住環境の維持保全のため、入居者の退居時

に住宅点検を実施し入居時と同等の状態への修繕を行っている。また、入退居時以外でも住人から要望があった時には生活に支障がある場合に限っては修繕や改修を行っている。しかしながら、築年数が古く外観や内装、設備について住人が不満を感じていることは町（教育委員会）も把握している。

現在、教育委員会で教員住宅を含む学校施設全ての建物に対し老朽化状況の実態を調査し、「学校施設長寿命化計画」を策定している。

今後、この計画と住人の要望をもとに、長期的な視点にたつて計画的に更新・長寿命化などを行い財政負担の軽減・平準化を図りながら整備を進めていきたい。

与論小学校正門周辺の整備

大田議員 与論小学校の正門前は、雨の日には正面一帯に水溜りができ、児童の通行に支障を来しており、見るに忍びない状況である。一日も早く改善する必要があると思うが、見解を伺いたい。



与論小学校正門の水溜り

教育長 指摘の与論小学校正門の内側は、降雨時に校庭側に雨水が流れ込む構造になっている。複数箇所に水溜りができ児童生徒の通行に支障を来しており、早急に対策を講じ

る必要がある。そこで排水路に集水箇所（グレーチング）を増やし、集排水の流れが良くなるような勾配を考慮した客土を行い、降雨時の車両の進入を制限するなどの対策も講じていく。

大田議員 旧朝戸保育所が仮設住宅に改修され、町営住宅改修時の仮住まいとして活用されているが、東側入口の扉が壊れて真面な施設ができなくなっている。早急に改修する考えはないか

町長 旧朝戸保育所は、応急仮設住宅として改修し、現在も随時受入れが可能な住宅として活用している。

指摘のとおり東側入口の扉は、劣化が激しく扉の役目を果たしていないので、改修作業を専門業者に依頼したところである。

大規模な農地集積を図れ

町長 新規土地改良事業を活用し集積を進める。



遠山勝也議員

持続可能な営農

遠山議員 農業収入のみで生計を立てるためには、大規模な農地集積が必要だと痛感するが、どのように認識し、どう取り組む考えであるか。

町長 本町では、区画整理工事や土層改良工事を実施している朝戸地区・那間南地区・那間北地区を農地中間管理事業の重点地区として担い手への農地集積を推進している。今後、土地改良事業を計画していく新規地区においても、区画整理工事に伴い農地集約を進めながら各種事業を活用し農地集積を進めて行きたい。

また、狭小地の多い本町において、農業収入のみの経営は厳しい現状にあるが、県が策定した農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針に基づき経営体の育成として、本町においても営農類型ごとの「効率的かつ安定的な農業経営の指標」、「新たに農業経営を営もうとする青年等が目標とすべき農業経営の基本的指標」が策定されておられ、各種施策を活用し農業の安定経営が行えるよう町農業技術員連絡協議会とも連携を図り、今後一層の指導・推進体制を整えていく。

町民や観光客の憩いの場の整備

遠山議員 本年11月末完成予定の新庁舎を含めた周辺を、町民や観光客がくつろげるような観光拠点エリアとし

て整備する考えはないか。
町長 新庁舎の敷地には、庁舎前面に来訪者の駐車スペース、庁舎西側には公用車や職員駐車場を計画している。また災害等の緊急時において、西側駐車場スペースを一時避難場所として活用するため県道からの取付け道路整備や排水対策用の調整池等も整備計画をしている。



建設中の新庁舎

このような全体配置計画の中で、敷地全体が一定の用途に位置付けられていることから町民や観光客の憩いの場所とするスペースの

確保は本事業計画では大変厳しい状況である。
質問の内容については、今後の中央公民館や給食センターの再整備計画と併せた新庁舎周辺の全体構想計画や旧庁舎の跡地利用計画の中で検討していく。

観光振興

遠山議員 観光振興を図るためには、既存の観光スポットをグレードアップさせるとともに、自然環境を十分にいかした新たな観光スポットの整備を積極的に推進する必要があると痛感するが、どのように認識し、どう取り組む考えであるか。
町長 既存の観光スポットのグレードアップについては、ビドウや、大金久遊歩道の整備を国・県等の補助事業を活用し引き続き進めていく。



奄美トレイルと論島コース

観光スポットについては、昨年、鹿児島県が設定した奄美トレイルコースがあり、与論島コースは3種類のコース、A区間（茶花・トウマイ海岸コース）、B区間（寺崎・皆田・大金久海岸コース）、C区間（赤崎・城集落・ビドウコース）になつている。与論島エリアマップが観光協会で見所が掲載されている。完成して間もないため、認知度が高いとは言えないが、今後はホームページや旅行会社などへ広く紹介していく。

わたしもひとこと



有馬 節光 氏

独居老人の塾通い

私の朝は忙しい。茶湯のお供えを始めとして、炊事、洗濯、ごみ出しなど。さらには、健康づくり…と朝のメニューをこなしている。老人である私が、なぜ朝方、このようにせわしく動き回っているのかというと、町立

プロフィール
○氏名 有馬 節光
○住所 与論町朝戸
○職業 元与論町教育委員長
元与論小学校校長

図書館の10時開館に、間に合わせたいからである。



玄関横の碑

図書館は、現町長の父である故山市郎氏が町長時代に建設されたと聞く。玄関横の碑には、「成らぬしどう習うてい 成功者出じゆる 今成らじ思てい 油断するな」との先人の遺訓が刻まれている。山市郎町長は、「図書館こそが島人の生きる原点になる」との強い信念と決意の下、こ

の館を建てられたのであろう。

私は図書館を利用すること十数年。雨天・晴天を問わず、ほとんど毎日通っている。情報収集のためである。子供たちに関する問題（教育改革、いじめ、幼保教育等）、老人の暮らし（年金、医療介護等）、女性のライフスタイル等に関心がある。

若い学者が、「メモは単なる記録ではなく知的生産を生む」と説いている。メモについて気が付いたことは、ルールや制度が急速に変わっていることである。また、年とともに痛感するのは、「漢字が思い出せない」ことである。小学校で習う漢字でさえ正確に書けない。パソコンではキーをたたけばすぐ漢字に変換される。しかし、いざ自分でペンを

執り書こうとすると、浮かんでこないことが度々ある。そこで、私は図書館を脳トレ塾と勝手に名付け、漢字を確かめながら新聞記事の内容をメモするよう努めている。私が図書館に通うもう一つの目的はボケ防止のためである。私は主にNK新聞から情報を収集している。これは内容が豊富で分かりやすく掘り下げも深い。



町立図書館

図書館には、乳幼児から大人までを対象にした多くの本が所蔵されている。新着図書等は、来館者の読書意欲がわくよう展示されて

もいる。また、図書館ではほほ笑ましい光景を見聞きする。「ママ、この本読んで。」と子供にねだられ、「じゃあ読むよ。」と若いお母さん。お父さんの後ろから、「何を見ているの。」と小さな子がよちよちとついていく姿など。その様子は実にほほ笑ましくうれしい。きつとこの子たちも将来本好きになるだろう。そう思うと胸が熱くなり、島の未来に夢をはせることとなる。

図書館には、冷房等快適な環境が整っていて学ぶのに十分な宝が山ほど詰まっている。願わくは、幼小中学生や若者が、この図書館を活用して大きな夢を持ち、かつ、実現し、島の発展と世人への貢献につなげてもらいたいと切に願うものである。

《編集後記》

去る5月、元号が平成から令和に替わった。6月には令和になつて初の定例議会が開催され、議員一人ひとりも気持ちも新たに議事に臨んだ。

新しい令和の時代も、町民に寄り添い、町民に信頼される議会を目指し、最善の努力を尽くしたい。

また7月13、14日、20、21日の日程で県体大島地区大会が各市町村で開催された。本町ではサッカー競技が前期で開催され、与論町が見事5連覇を達成した。日頃の精進に心から敬意を表したい。他の競技も、なかなかの健闘であった。県体出場者の健闘を祈る。

ここに第132号を発行できたことを、町民及び関係各位に感謝申し上げます。(大田)